

第5期まちづくり市民会議の提案に対する回答書

1 提案事業名

目指せ！体験型商店街

2 提案に対する感想等（関連施策の現況、提案に対する共感事項など）

本事業では、商品やサービスを購入したことで得られる体験に価値を見い出す、いわゆる「コト消費」と呼ばれる新たな需要が明らかになったと認識しています。

継続的に開催されることは、参加者に商店街の興味を引き出した成果の次には「どのように購買に至るか」という各店の稼ぐ力にもつながります。さらには商店街に親しみをもってもらふことや地域の生活を支える商店街の機能を知っていただくことにもつながり、商いを知る教育的な見地など多面的に捉えることができる事業であると考えています。

3 提案の問題点（提案施策を実施するにあたり問題や支障となること）

本事業では、本来商店街が自らの集客や購買につなげることを原則と考えます。このことから、実行委員会の発足の働きかけについては、商店街振興組合等の商業団体主体で行うことが前提であります。事業負担では、原則商業団体と考えていますし、初期投資額において商業団体が計画する内容で事業費の試算が必要と考えます。

4 今後の方針（提案施策に対する担当課の考えや今後の方針）

市では、商業振興を進め、地域の生活を支える商店街の機能強化につながり商店街が活性化されるよう引き続き取り組んでいきます。

本事業では、実行委員会の参加に協力していきたいと考えますし、関市ビジネスサポートセンターにおける事業者ごとの個別相談の支援も行います。今後、商業団体主体で立てられた事業計画の内容で、市の政策にあたるものがあれば、ご提案いただいた上で精査させていただきたいと考えています。

第5期まちづくり市民会議の提案に対する回答書

1 提案事業名

小瀬・池尻周辺観光チーム

2 提案に対する感想等（関連施策の現況、提案に対する共感事項など）

鵜飼から小瀬・池尻の観光へ繋げるご提案で、提案1の「小瀬・池尻周遊観光」オプションツアーの計画は、魅力ある観光資源を、結びつける効果的な方法であると考えます。提案2・提案3はセットで整備することで効果があると考えます。

3 提案の問題点（提案施策を実施するにあたり問題や支障となること）

- ・ ツアーガイド等の人材育成
- ・ 看板を設置する場所等の制限（河川法等）
- ・ 滞在時間の確保（鵜飼は夕方見えてそのまま帰るお客様が多い。）

4 今後の方針（提案施策に対する担当課の考えや今後の方針）

・ 周辺地域への回遊性を高める施策の一つとして、オプションツアーの手法は効果的であり、今後チームで研究される時にはアドバイスをさせていただきたいと考えております。

・ 課題等はあるものの、看板の設置、パンフレットによる普及啓発は、効果的であり、観光交流課のみならず、関係課とも連携をして設置・作成する方向で考えております。

第5期まちづくり市民会議の提案に対する回答書

1 提案事業名

チーム「新入生いらっしやい」
大学と市が連携した講義を提供してください。

2 提案に対する感想等（関連施策の現況、提案に対する共感事項など）

提案いただいた施策に近い事業として、中部学院大学の講義「美濃と飛騨のふくし」の中の一コマを市職員が受け持つものがあります。平成22年度から行っており、経済部門や福祉部門などの内容の講義やフィールドワークを通して、学生の皆さんに関市の施策や魅力を知っていただくよい機会になっています。ただし、半期や一年を通してというものではなく、市と大学が連携して行う講義で単位が取れるという点は斬新で、関市のことを知ることにとどまらず、まちづくりに参加したり、将来関市内の企業などに就職したいという学生の気持ちにつながる可能性もあるよい事業だと考えます。

3 提案の問題点（提案施策を実施するにあたり問題や支障となること）

大学側の理解やシラバスとの兼ね合いと講義内容の充実、学生の学ぶ姿勢につけると考えます。

4 今後の方針（提案施策に対する担当課の考えや今後の方針）

関市と連携している3大学等の連携担当部署にさっそく相談に出向きます。その中で、理解いただけそうな感触があれば、講義の内容を充実するため各課と調整し行います。

難しければ、現在中部学院大学で行っている1コマを増やすなど、できることから始めたいと考えます。

第5期まちづくり市民会議の提案に対する回答書

1 提案事業名

チーム「新入生いらっしやい」

大学と市民合同の関市を知って楽しむためのサークル活動立ち上げに対してコーディネーターを置く支援をしてください。

2 提案に対する感想等（関連施策の現況、提案に対する共感事項など）

提案いただいた施策に近い事業として、「関市市民活動センター」が実施している「関のわかもの会議」というものがあります。当該事業は、「新しい関の働き方、暮らし方を探す」というテーマで、市内の飲食店等で開催し、新しい働き方をしている人をゲストに、様々なことについて話す場を設けています。ただし、当該センターは、年齢を問わず広く市民活動全般をサポートする中間支援機関であり、当該事業も20～35歳を対象にしており、大学生のみに特化している訳ではありません。今後、大学生向けのまちづくりに関する事業を検討する必要があります。

中部学院大学や岐阜医療科学大学といった市内の大学に在学する大学生をつなぐといった発想は新鮮であり、大学生のまちづくり参画に対して新たな方策を見出せるように考えられます。また、大学生がまちづくりに参画していくことで、まちに活力が創出され、そこから若者同士のつながりが生まれることで、新たな市民活動を生む契機にもなるのではないかと考えられます。

3 提案の問題点（提案施策を実施するにあたり問題や支障となること）

自治体が行う事業であるため、食べ歩きサークルという趣旨上、助成金等の直接的な支援は難しいと考えますが、大学間のコーディネートという支援は可能かと考えます。その場合でも、個人的な団体の支援に偏りすぎないように、支援内容については精査していく必要があると考えます。

4 今後の方針（提案施策に対する担当課の考えや今後の方針）

関市では、「関市自治基本条例」において、市内の大学に在学する大学生も市民と定義づけられており、市民や市民活動団体との協働を推進する機関として「関市市民活動センター」が規定されています。

そのため、市民協働課と関市市民活動センターとで連携し、具体的なコーディネートの内容を検討し、コーディネーター設置事業を試行的に実施する方向で進めていきます。

第5期まちづくり市民会議の提案に対する回答書

1 提案事業名

広報せきに大学生向けの情報の提供をしてください

2 提案に対する感想等（関連施策の現況、提案に対する共感事項など）

広報紙に関して提案をいただきありがたく存じます。

現在、広報せきは、自治会などを通じて各戸へ配布しているほか、市内のコンビニエンスストア、ショッピングセンター、公共施設などで入手いただくことができます。

しかしながら、大学では入手できないため、早速、手配いたします。

また、電子書籍版広報紙をホームページ上に公開していますので、ぜひ、ご覧いただけますと幸いです。

大学生からの情報発信したページを広報紙に掲載する提案についても、おもしろい提案ととらえています。

3 提案の問題点（提案施策を実施するにあたり問題や支障となること）

自治体広報紙への情報掲載のため、情報の内容に注意が必要と考えます。例えば、「店舗や商品の紹介がし辛い」ことなどから、内容の選別が課題となりそうです。

もちろん、ページ数の調整も課題となります。

4 今後の方針（提案施策に対する担当課の考えや今後の方針）

“広報せき”を学生に配布してください。

- ・大学生に広報紙を読んでもらえるよう、大学にも“広報せき”を配布します。

大学生の暮らしに役立つ情報ページを、“広報せき”に設けてください。

学生が作り手になる等、大学生を巻き込んだページが望ましい。

- ・情報ページを大学生が作り手となって提供していくことは、おもしろい試みと考えます。作り手の候補となる提案2とあわせて考えていきます。

市民に対して大学の情報を提供することも、検討していきます。